

さりげなく、上品に……

全体計画・配置計画

北側で道路に接し、東側、西側、南側を隣家に囲まれているという、基本的な敷地条件を考慮して、建物の配置を決定しました。

北側に駐車場をとらなければならないということもあり、建物を敷地南側いっばいに寄せて建てることにしました。

それは、南側にスペースをあけても、決して良好な場にならないと判断したためです。

ただし、敷地の南西の隅に、坪庭のようなスペースをとりました。

このスペースは隣家の隙間と連続し、「風の道」を形成します。

「風の道」を通った風が、建物内を通り抜けます。

また、このスペースは、1階南側の居室の採光条件を満たすためにも必要です。

建物を南側に寄せるメリットは、他にもあります。

狭い敷地では、道路斜線や北側高度斜線、日影規制など建物の高さに対する制限が厳しくかかってきます。

建物を南側に寄せることにより、この高さ制限を緩和することができます。

建物の南側を高くすることができ、上方から太陽光線を屋内に取り込むことができます。

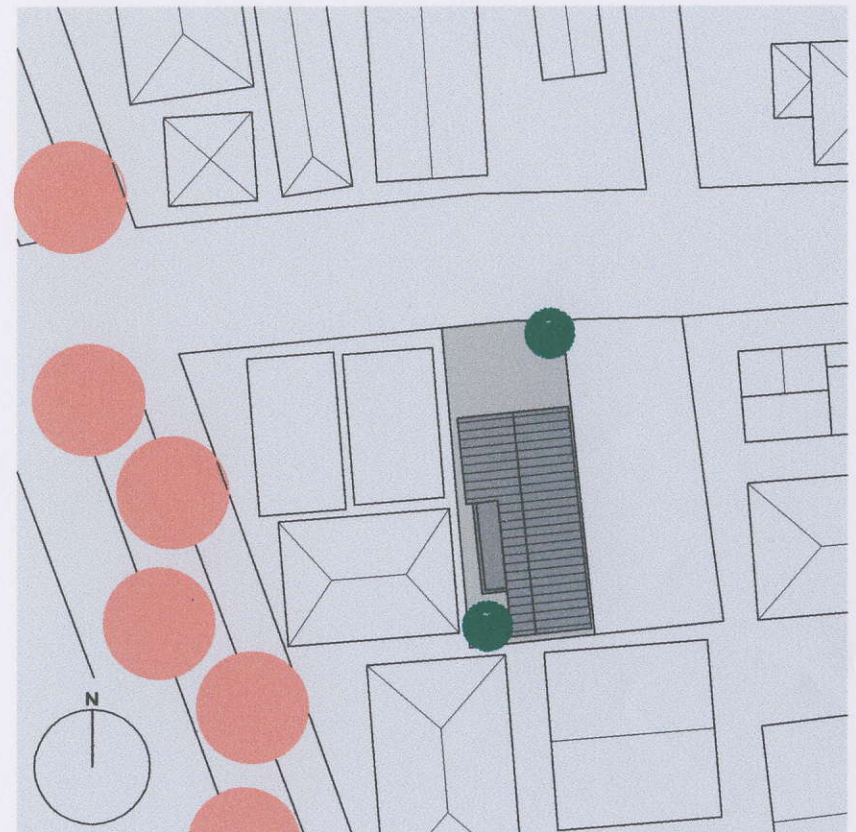
冬至の日の正午の太陽の光のシュミレーションを作ってみました。

周囲の建物の高さは推定ですので、正確ではありませんが、大きな違いはないと思います。

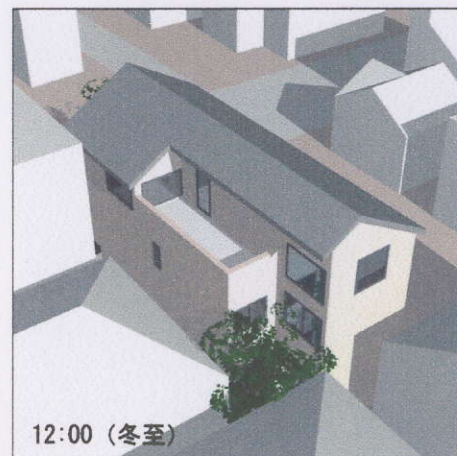
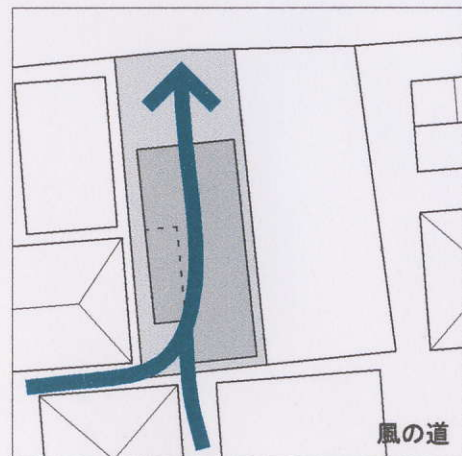
建物上部には、太陽の光が十分に当たっています。

道路に面した建物の2階部分は、駐車場の上に庇状に張出しています。

それによって外観に奥行きができ、玄関ポーチや自転車置場として利用することができます。



配置図 S:1/400



平面計画

1階に3つの居室、2階にリビングルーム、ダイニングルーム、キッチンおよび水廻りを配置しています。

キッチンの上部にロフトを、水廻りの上にルーフバルコニーをとりました。

家の中で、睡眠時以外で、最も長時間過ごす場に、最もよい場所をあてるように配慮しました。

その結果、リビングルームを外に向かって視界が開ける2階北側の端へ、ダイニングルームを上方から南側の光が入る2階南側の端に配置しました。

1階の3つの居室は、どれを主寝室にしてもかまいません。

2階部分は1階から張出す形になっています。

張出しの下は底空間として、玄関ポーチや自転車置場になります。

この壁は1階と2階で、上下同じ位置に耐震壁を取るために配置したのですが、玄関に直接北風が入り込むのを防ぐ風除けとして、玄関内を直接覗かれないように目隠しとしても機能します。

2階のリビングルームとダイニングルームは、天井を高く取り、上方から南の光を取り込めるようにしています。

リビングルーム上部、ダイニングルーム上部とロフトを連続させることにより、空間の広がりを作っています。

また、リビングルームとキッチンから玄関が見えるようにしてあり、子供の出入りや、来客のチェックができます。

2階の水廻りの壁の一部を、光の透過するガラススクリーン（不透明）とし、軽やかで圧迫感のない壁面にしています。

昼間は水廻りの内部を明るくすることができ、夜間は内部を照明することにより、光の壁として、照明器具としても使えます。

1階に2ヶ所、2階に1ヶ所、設備配管用のスペース（PS）をとっています。

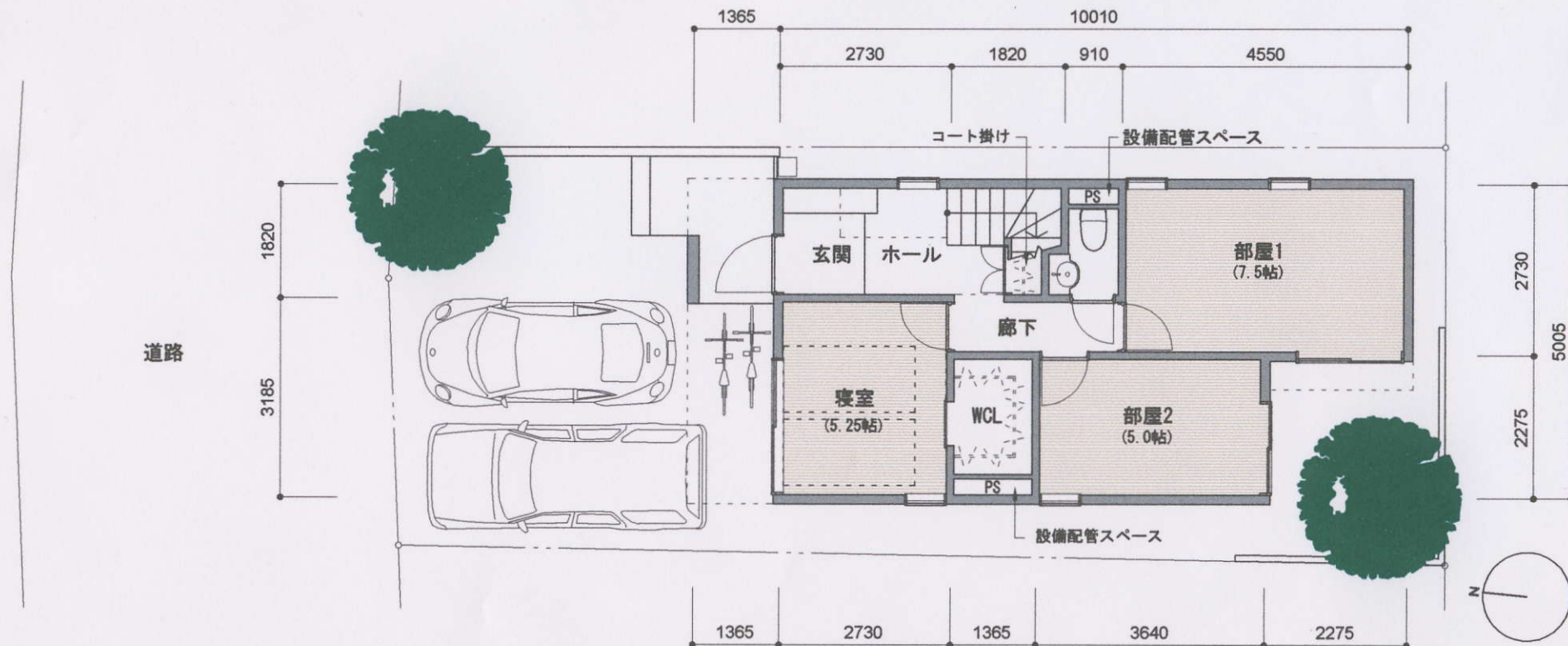
小さな住宅では、PSをとらないことが多いのですが、設備配管による構造体の欠損を防ぐためや、将来のメンテナンスのために有効です。

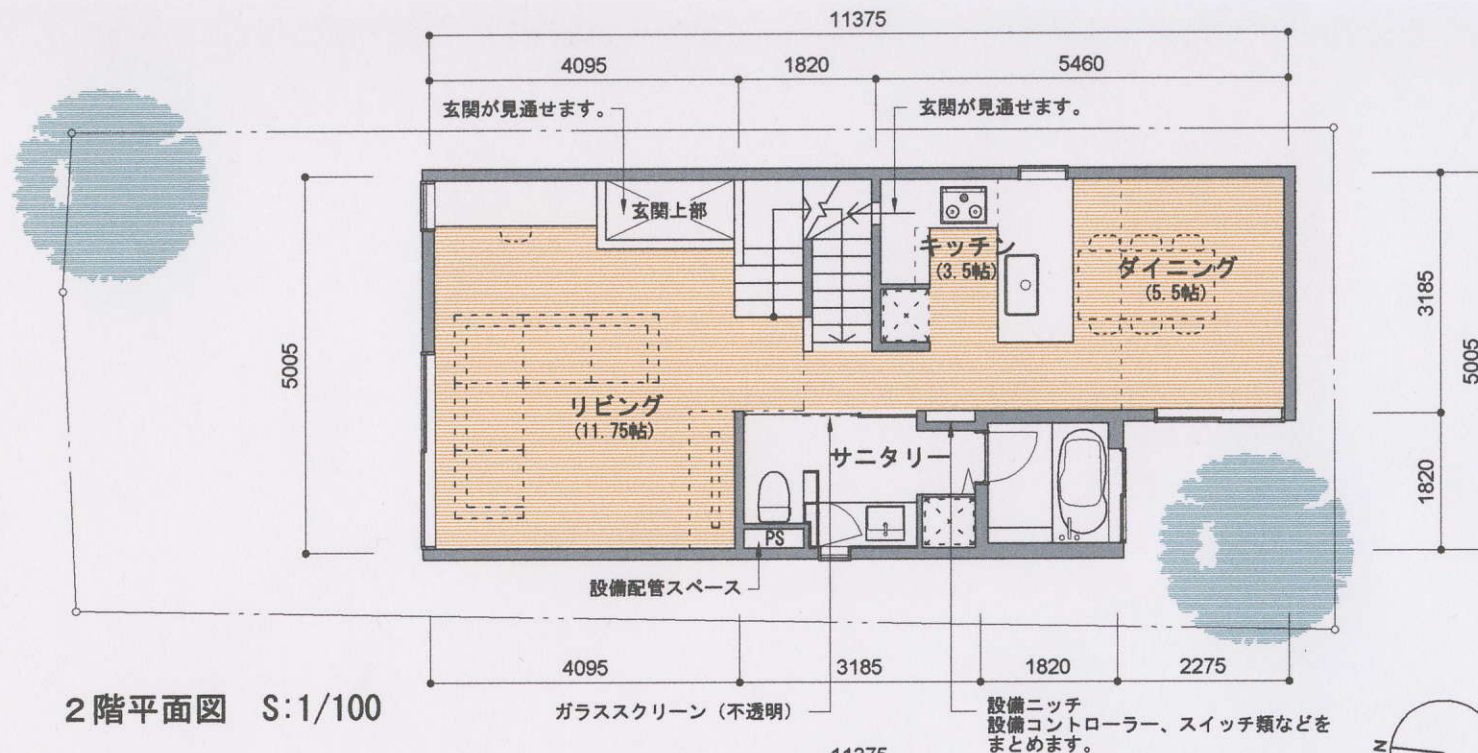
ロフトの外側にルーフバルコニーを取りました。

雨漏りに対するリスクはありますが、狭い敷地に建つ家の閉鎖性から開放される場として、ぜひ実現したいと思います。

隣家の軒より高い位置になるはずですので、隣家の屋根越しに空が開けます。

屋根と屋根の間から、遊歩道の桜も見えるかもしれません。





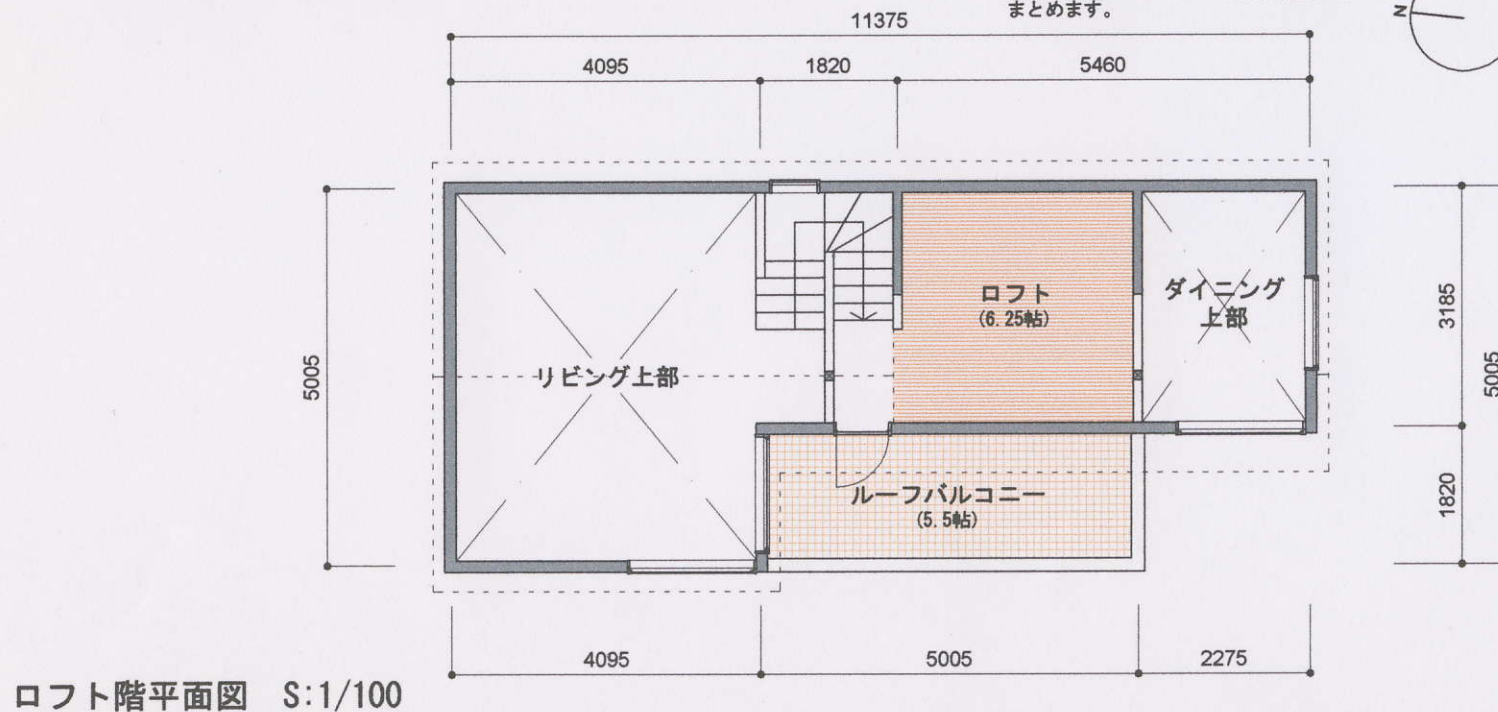
外部仕上げ

外部仕上は、住む方の好みにできるだけ合わせたいと思います。
 現時点では、モルタル+吹付け材で考えています。
 屋根は、コストを考え、カラーガルバニウム鋼板です。

内部仕上げ

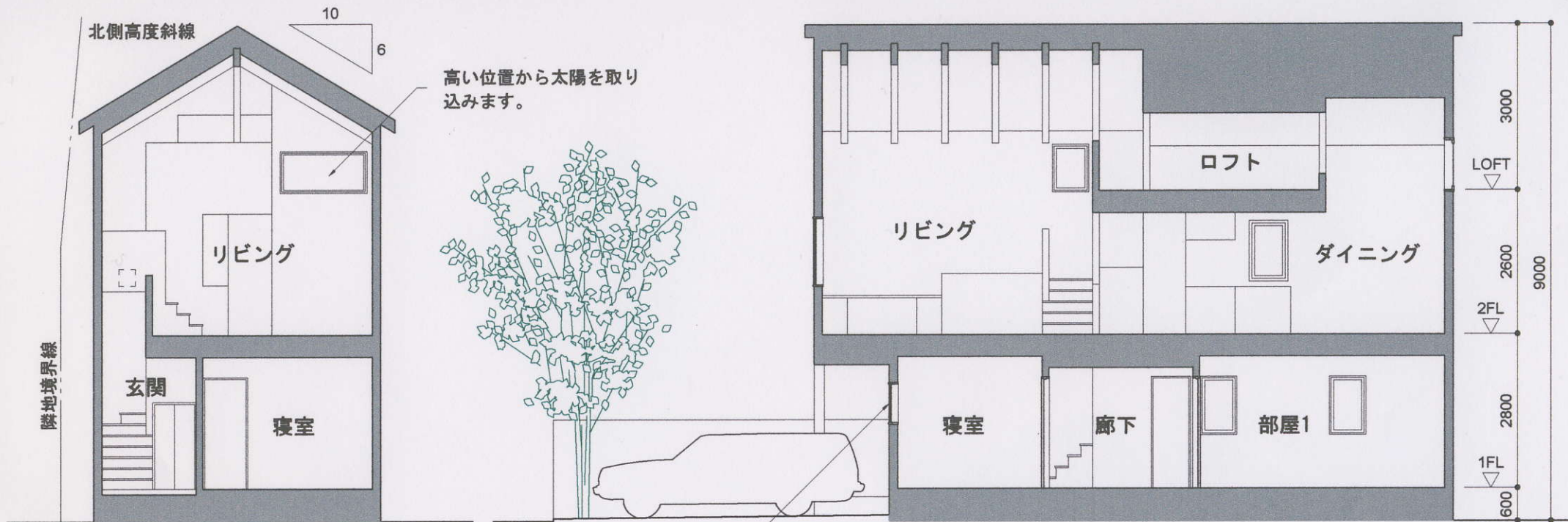
できれば主要部分は、漆喰塗装にしたいと思います。
 他の部分はビニルクロス貼りになるでしょう。
 床はフローリングを考えています。
 2階のリビング・ダイニングには、床暖房を入れたいと思います。
 天井は基本的に、壁仕上材と同一の材質で考えています。

※ただし、これらはコストに大きく影響しますので、業者見積が出た段階で、検討、修正を余儀なくされる可能性があります。



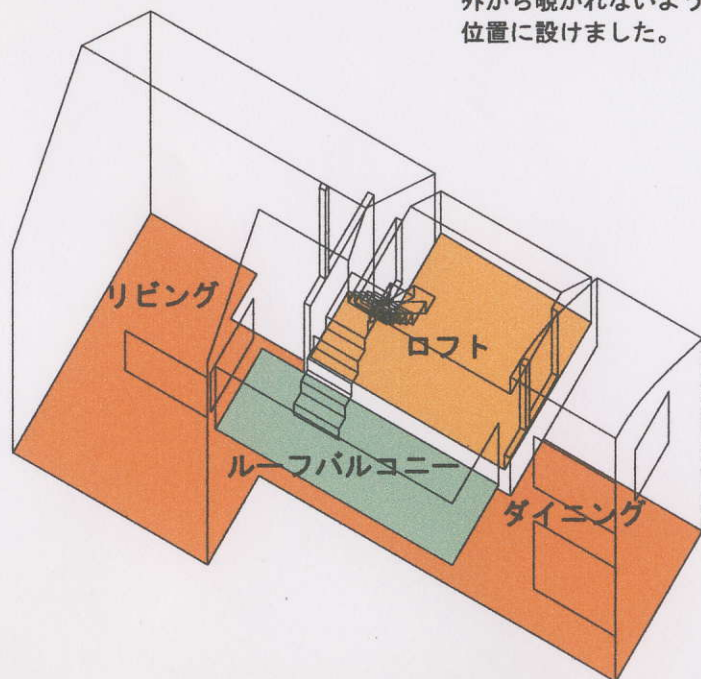
面積表

敷地面積		109.16㎡
各階面積	1階	44.93㎡
	2階	51.14㎡
	ロフト階	13.05㎡
延べ面積		108.12㎡ (32.71坪)
建築面積		52.80㎡
容積率対象面積		98.97㎡
建蔽率		48.37%
容積率		90.67%



外から覗かれないように、高い位置に設けました。

断面図 S:1/100



断面計画

2階部分の天井を高くし、平面的な狭さからくる圧迫感をなくしました。

リビング・ダイニング・ロフト・ルーフバルコニーを立体的に連続させ、空間的な広がり生まれるようにしました。

天井近くの高窓から、空を望むことができます。ここから南の太陽を取り込みます。

階高はコスト面からできるだけ低く抑えたいのですが、2階に水廻りがあるため、その排水配管のためと、ルーフバルコニーの防水のために、ある程度の高さが必要になっています。

軒の出をできるだけ大きくとりたかったのですが、北側高度斜線のため、小さな出になってしまいました。(建物の高さを下げれば、もっと大きく取れます。)

構造計画

構造は重量木骨構造を考えています。

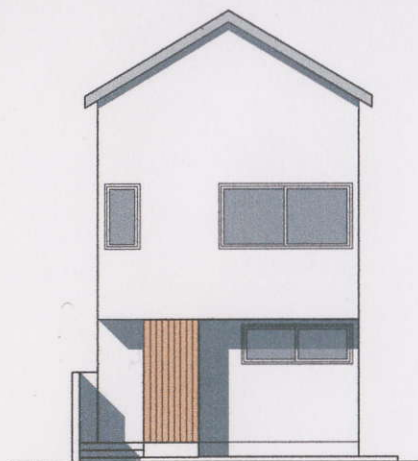
構造材はすべて集成材で金属プレートで結合します。

耐震性に優れ、耐震壁の量も少なくてすみます。

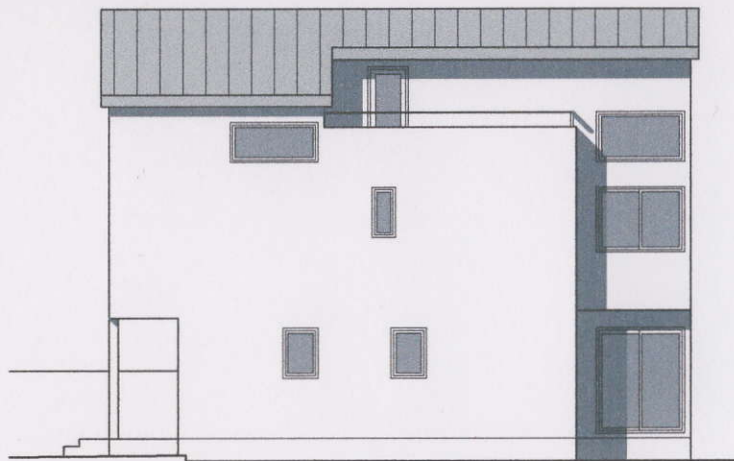
構造体が自立していますので、間仕切壁なども自由に配置することができます。

もちろんきちんと構造計算をします。(構造計算料が発生します。)

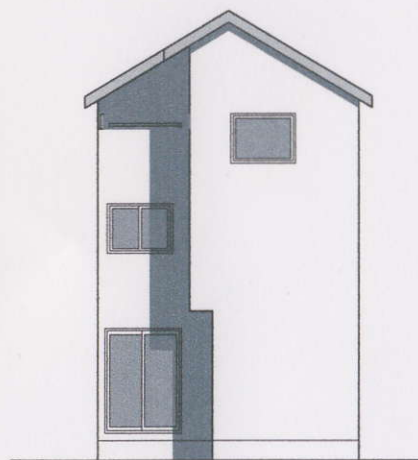
できるだけシンプルな構造にしました。



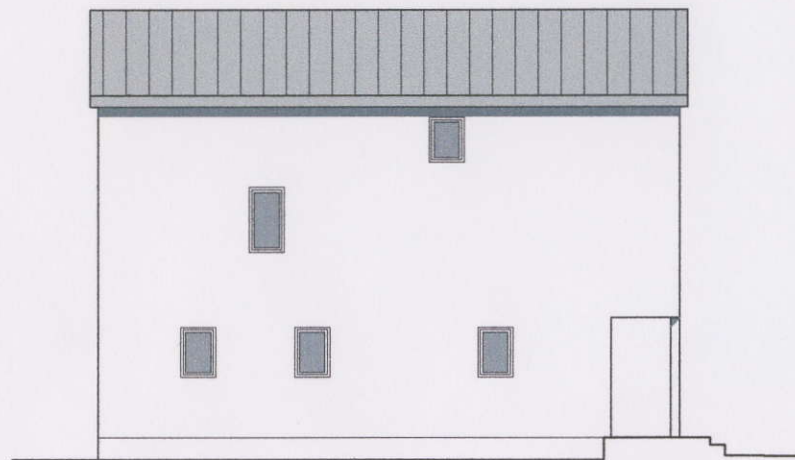
北



西



南



東

立面図 S:1/150

外観デザイン

外観といっても、東側の敷地にも近い将来家が建つことが予想されますので、この家で外から見える部分は、道路側の北面のみということになります。

コスト面も考え、外観デザイン上、特に凝ったところはありません。

内部の要求がシンプルにそのまま出た外観と言えるでしょう。

それが逆に、品のよさにつながるのではないのでしょうか。

唯一アクセントとして、玄関前の壁を板張りにしてみました。（タイルでもいいと思います。）

屋根は単純な切妻屋根です。強い雨が多い日本では、単純で大きな屋根がいいと思います。

軒の出も大きくとりたかったのですが、斜線の関係であまり取れませんでした。

この意味ではルーフバルコニーは問題ありますが、これは実現したいですね。

